

子宮頸がんは、定期的なワクチンと検診で予防できる時代です。

はじめよう！子宮頸がん予防



平成21年4月から、子宮がん検診期間の広域化がなされ、県内にお住まいの方は、居住地にかかわらず、一年を通して、いつでもどこでも受診ができるようになりましたので、これを機会に、ぜひ、検診を受けましょう。また、平成21年12月22日から子宮頸がん予防ワクチンの接種が可能となりましたので、併せてご相談下さい。

子宮がん検診 広域化参加医療機関	住 所	電話番号	子宮頸がん ワクチン	予約
徳 島 市				
伊月健診クリニック	徳島市東船場町1丁目8	088-653-2315	○	要
沖の洲病院	徳島市城東町1丁目8-8	088-622-7111	○	要
牧野婦人科	徳島市寺島本町東2丁目22-2	088-622-1680	○	要
河野美香レディースクリニック	徳島市山城町3丁目26	088-625-2370	○	要
協立病院	徳島市八万町橋本92-1	088-668-1070	○	要
恵愛レディースクリニック	徳島市佐古三番町4-6	088-653-1201	○	要
国府藤田産婦人科	徳島市国府町171-4	088-642-1026	○	要
後藤田医院	徳島市徳島町3丁目56	088-623-3847	○	要
さいじょう産婦人科	徳島市佐古一番町5-10	088-652-7559	○	要
しんくろ女性クリニック	徳島市新蔵町3丁目59	088-602-2088	○	要
袖川産婦人科クリニック	徳島市北田宮3丁目5-85	088-633-1133	○	不要
田中産婦人科	徳島市栄町4丁目18	088-622-9688	○	要
徳島健診クリニック	徳島市南田宮4丁目8-56	088-632-9111	○	要
徳島通徳病院	徳島市伊賀町3丁目19-2	088-623-8623	○	要
富岡医院	徳島市国府町日保973-1	088-642-8111	○	要
野田産婦人科婦科クリニック	徳島市富田3丁目8	088-622-5930	○	要
若名産婦人科医院	徳島市南二軒屋町1丁目2-55	088-652-2538	○	要
樋口医院	徳島市仲之町1丁目5-1	088-622-3622	○	不要
平尾レディースクリニック	徳島市西浜町中須85-7	088-669-6366	○	要
三谷産婦人科	徳島市吉野本町4丁目46	088-622-2602	○	要
美しレディースクリニック	徳島市栄町2丁目15	088-653-3570	○	不要
メイブルクリニック高橋産婦人科	徳島市瑞島2丁目2-8	088-652-7077	○	要
吉田医院	徳島市新内町1丁目18	088-625-3065	○	要
鳴 門 市				
日下婦科産婦人科医院	鳴門市湊町南浜字東浜271	088-686-5177	○	要
健康保険鳴門病院	鳴門市湊町黒崎字小谷32-1	088-683-0011	○	要
だいたうレディースクリニック	鳴門市湊町大島字北ノ浜71	088-683-1588	○	要
レディースクリニック高松産婦人科	鳴門市湊町南浜字東浜601	088-685-1103	○	要
小 松 島 市				
住吉レディースクリニック	小松島市南小松島町8-3	0885-32-0836	○	要
阿 南 市				
阿南医師会中央病院	阿南市宝田町川原2	0884-22-1313	○	要
阿南共栄病院	阿南市羽ノ浦町中庄町ノホケ36	0884-44-3131	○	要
福井産婦人科	阿南市富岡町海ノ下41	0884-22-2933	○	要
木下産婦人科内科医院	阿南市宇原町上水田11-7	0884-23-3600	○	要
徳本医院	阿南市富岡町西新町8-1	0884-22-2701	○	要
森本内科産婦科	阿南市富岡町西新町8-1	0884-23-1002	○	要
吉 野 川 市				
いぬい産科婦人科クリニック	吉野川市徳島町内道字島ノ内4番地3	0883-22-1230	○	要
藤崎協同病院	吉野川市徳島町徳島252	0883-24-2101	○	要
岡井クリニック	吉野川市徳島町徳島283	0883-24-3300	○	要
阿 波 市				
小笠原医院	阿波市市場町市場町172-1	0883-36-2030	○	要
つ る ぎ 町				
つるぎ町立半田病院	美馬郡つるぎ町半田字中殿232-5	0883-64-3146	○	要



がん予防のススメ

日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡するといわれていますが、定期的ながん検診を受診し、早期発見することができれば、多くの場合は治すことができる病気です。

子宮頸がんは
予防できます。

あなたは検診を
お嬢さんにはワクチンを！



徳島大学病院 産科婦人科教授
いら ぼろ みのる
苛原 稔氏

子宮頸がんは、定期的なワクチンと検診で予防できる時代へ、あなたは検診を、お嬢さんにはワクチンを。

子宮がん検診の普及によって、子宮頸がん（けい）がんの死亡率は減少していましたが、一九九五年頃から再び上昇傾向に転じており、二十〜三十歳の女性のがんの中で第一位を占めています。

子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を介した感染によって発生します。HPVは、皮膚の表面に広く人類に蔓延しており、ほとんどの人は一度は感染していると考えられています。多くの場合は自然に治癒してしましますが、一部の人は持続感染に移行し、その一部に子宮頸がんが発症すると考えられています。HPVの感染を予防するワクチンが既に実用化されており、本邦でも平成二十一年十二月から使用可能になっています。このワクチンは既に感染したHPVには効果が無いので、性交渉を始める前の十一歳前後に接種するのが理想的ですが、HPVに感染する可能性のある方は接種を受けることをお勧めします。副作用はほとんどありませんが、〇カ月、一カ月、六カ月後に三回接種する必要があります。三回で五万円程度必要です。

十一歳の女児全員に接種すると毎年二〇〇億円程度かかりますが、がんの死亡者数を七三〇万減少させると推定されています。オーストラリア、ドイツやノルウェーでは全額公費負担となっており、国内でも一部の自治体で公費補助の動きがあります。

ぜひ公費で全員にワクチンを接種できるように世論を盛り上げたいと思います。

徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ

■徳島大学病院 Tel.088-631-3111

■がん診療連携センター Tel.088-633-7312